

## 自宅療養中に足創傷が感染増悪した CLI 患者に対するセルフケア支援を考える

【目的】足創傷がある状況で自宅退院となった患者が、創傷悪化・感染を生じ緊急小切断に至った。自宅療養中のケア実践プロセスを振り返り、創傷管理を自宅で継続する CLI 患者への患者指導、退院後のフォローアップ方法について考察を加え報告する。

【方法】患者・家族への非構成的面接を通じ、退院から緊急入院までのセルフケア状況を聴取し、考察した。

【結果】70代、男性、糖尿病、両側 CLI 発症。入院し、PTA 治療実施。血流改善に伴い、創傷管理の継続は自宅で実施となり、セルフケア指導を経て退院に至った。退院 1 か月後に左足部の感染、壊疽を伴う創傷悪化を認め、緊急入院の後、第 4 足趾切断術を実施した。自宅での状況について確認したところ、患者・家族はセルフケア指導内容に基づき、足浴や処置を必死に実施していたが、風呂場で行っていた足浴は何度か転倒し苦労したとの言葉が聴かれた。創傷増悪は気づいていたが次回受診日が近く、様子を見ていたと述べた。

【結論】指導を行い創傷管理についてはセルフケアが確立していると判断した事例であったが、退院後の自宅でのケアは患者にとっては身体的・精神的にも苦痛を伴っていた。その理由として、1. 患者・家族の実態と指導内容が乖離、2. 退院後セルフケア継続状況の評価不足、が考えられた。退院後の自宅での具体的なケア実践をイメージし、乖離が最小限となるような指導を実施すると共に、フットケア外来など療養相談窓口を設け、継続的なセルフケア支援と悪化の早期発見を行うことが必要と考えられた。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号